

SAMPLE



フェアな価格 確かな信頼

バイオマス
Biomass

お申し込み >

試読 >

☆RIM BIOMASS INTELLIGENCE WEEKLY

★No. 227 Sep 5 2024

Copyright (C) 2024 Rim Intelligence Co. All rights reserved.

—TOKYO, 10:00 JST Sep 5 2024<Assessment Closing Time>

「リム価格」は登録商標です 登録番号・第5387777号

◎お知らせ

○季刊誌『エネルギー通信』第21号発売のお知らせ

リム情報開発は8月20日、エネルギーの「いま」をまとめて把握できる季刊誌『エネルギー通信』第21号を発行しました。今号では、政府が行っている石油・ガス・電気に対する価格激変緩和措置をまとめました。また、脱炭素化に向けた世界の動きとして、アンモニアや水素などの新燃料の動向、化石燃料のカーボンニュートラル化、脱炭素化に取り組む自動車業界の最新事情を取り上げました。『エネルギー通信』第21号でぜひご覧下さい。

『エネルギー通信』は、WEBで閲覧いただくことができます。

エネルギー通信チーム TEL: 03-3552-2411 / Email: info@rim-intelligence.co.jp

○電力データ CD・2023年度版の販売開始について

リム情報開発は、電力入札データの2023年度版CDを、7月17日から販売を開始しました。初版となる2014年度版のリリース以来、各方面からご好評をいただいております電力入札データの2023年度版となります。最新版では、2023年4月から2024年3月までの1年間に、全国の公共機関が公募した電力調達について、詳細な情報を提供いたします。2023年度版は、収集件数4,071件(昨年度4,168件)で、うち比較可能なデータは2,058件(同1,000件)です。

※「比較可能データ」：予定供給量、契約電力、契約金額がそろった案件を集計(入札不調、入札条件が不明などの案件は除外)

関連記事

<https://www.rim-intelligence.co.jp/news/data/1777043.html>

お申込みこちらへ

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contact/form/powerData.html>

リムレポートのご紹介

リム情報開発のレポートラインアップは、下記のURLからアクセスください。各レポートのサンプルに加え、内容についての詳細な説明がご覧いただけます。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/report/>

原油・コンデンセート	アジア石油製品	バンカーオイル
ローリーラック(国内陸上)	ジャパン石油製品(国内海上)	LPG LNG
石油化学	ポリオレフィン	電力
バイオマス(週刊)	デイリーデータ	Rim Data File
クリーンエネルギー(週刊)	CROSS VIEW 軽油/重油	エネルギー通信

上記に関するお問い合わせは、TEL 03-3552-2411 E-mail info@rim-intelligence.co.jp



◎Wood Pellets(木質ペレット \$/mt)		
OFOB Southeast Asia Spot Prices for South Korea		
	Wood Pellets	Yen/mt
FOB spot prices (Oct)	100.00-110.00	14,640-16,104
FOB spot prices (Nov)	100.00-110.00	14,640-16,104
FOB spot prices (Dec)	100.00-110.00	14,640-16,104
OFOB Southeast Asia Spot Prices for Japan		
	Wood Pellets	Yen/mt
FOB spot prices (Oct)	120.00-130.00	17,568-19,032
FOB spot prices (Nov)	120.00-130.00	17,568-19,032
FOB spot prices (Dec)	120.00-130.00	17,568-19,032
OFOB North America(including southwest Canada) Spot Prices		
	Wood Pellets	Yen/mt
FOB spot prices (Oct)	140.00-150.00	20,496-21,960
FOB spot prices (Nov)	140.00-150.00	20,496-21,960
FOB spot prices (Dec)	140.00-150.00	20,496-21,960
OCFR Japan Spot Prices		
	Wood Pellets	Yen/mt
CFR Japan spot prices (Oct)	150.00-160.00	21,960-23,424
CFR Japan spot prices (Nov)	150.00-160.00	21,960-23,424
CFR Japan spot prices (Dec)	150.00-160.00	21,960-23,424
OFreight rates		
Southeast Asia to North Asia	+2 27.00-32.00 +2	
North America to North Asia	40.00-45.00	
TTS=146.40(9月4日、三菱UFJ銀行)		

◎PKS (パーム椰子殻 \$/mt)		
OFOB Indonesia Spot Prices		
	PKS	Yen/mt
FOB spot prices (Oct)	75.00-84.00	10,980-12,298
FOB spot prices (Nov)	75.00-84.00	10,980-12,298
FOB spot prices (Dec)	75.00-84.00	10,980-12,298
OFOB Malaysia Spot Prices		
	PKS	Yen/mt
FOB spot prices (Oct)	75.00-84.00	10,980-12,298
FOB spot prices (Nov)	75.00-84.00	10,980-12,298
FOB spot prices (Dec)	75.00-84.00	10,980-12,298
OCFR Japan Spot Prices		
	PKS	Yen/mt
CFR Japan spot prices (Oct)	100.00-110.00	14,640-16,104
CFR Japan spot prices (Nov)	100.00-110.00	14,640-16,104
CFR Japan spot prices (Dec)	100.00-110.00	14,640-16,104
OFreight rates		
Southeast Asia to North Asia	+1 30.00-35.00 +3	
TTS=146.40(9月4日、三菱UFJ銀行)		

◎国産材 (Yen/mt)		
○Japan Domestic price (in Yen/mt)		
	未利用材原木	未利用材チップ
北海道東北	6,800-7,800	9,800-10,800
関東甲信越	7,000-7,500	10,000-10,500
北陸中部	7,200-8,200	10,200-11,200
関西	8,000-9,000	11,000-12,000
中国四国	6,900-7,900	9,900-10,900
九州沖縄	7,600-8,600	10,600-11,600

(注記) 未利用材チップの価格評価の対象は水分 50%前後

◎木質ペレット
○概況

東南アジア積み韓国向け、日本向け、北米積みはいずれも前週からもち合い。日本着も前週並みとなった。フレートは東南アジアと日本間が上昇。船腹のタイト感を受けた。北米と日本間は変わらず。

○FOB 東南アジア

東南アジア積み木質ペレットは、韓国向け10～11月積みはいずれも100.00～110.00ドルと前週と同水準で推移。12月積みも100.00～110.00ドルとなった。

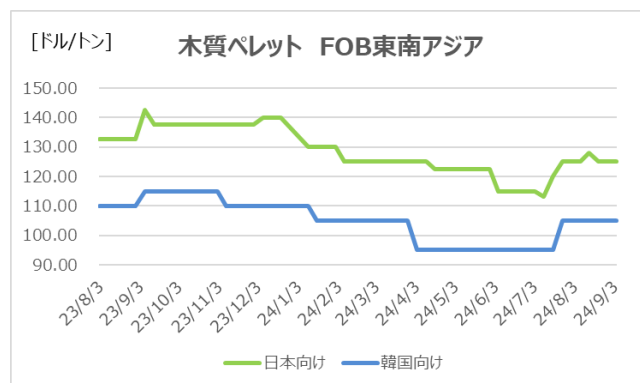
ベトナムで主に韓国に向けてカーゴを輸出している南部地域で、木質ペレットのスポット販売余力が生じているという。韓国にはこのところ割安なロシア品が流入しており、ベトナム品のシェアが奪われているとの見方が伝えられる。既報のとおり、韓国では石炭との混焼用として一定の需要が続いているものの、供給国間の競争が強まっており、相場の上値は重いという。

日本向け10～11月積みは120.00～130.00ドルと前週からもち合い。12月積みも120.00～130.00ドルとなった。

日本向けベトナム積み品は商談水準が引き続き120～130ドルに保たれている。国内発電所の需要低迷が続くなか、130ドルを超えるオファーは多くはないようだ。一方、ベトナムのサプライヤーからは、材料不足を背景に価格を切り下げた販売を敬遠する声が聞かれ、120ドルを下回る水準での取引は限られている。

市場関係者によると、ベトナムで家具生産量が減少、木質ペレットの原料となる端材が潤沢ではないとの指摘が聞かれた。家具の主要な輸出先である米国の需要が低迷しているという。端材の供給が引き締まることで、ペレット相場が下支えされているとの見方も出ている。

8月末にベトナムで船積みされた3万トンの木質ペレットについて、市場では、この玉の引き取り手は北米の大手サプライヤーとの見方が示された。同社は北米品で賄いきれない分を、東南アジアで手当てして北東アジアに持ち込んでいる。



○FOB 北米

北米積み木質ペレットは10~11月積みがいずれも140.00~150.00ドルと前週からもち合い。12月積みも140.00~150.00ドルとなった。

北米品の主要な持ち込み先である欧州では、引き続き木質ペレットの需要が低迷しているようだ。景気が低迷し、電力需要も盛り上がりを受けてい

るといふ。このためトレーダーが北米品をスポット市場で買い付ける動きは依然として乏しい。

既報のとおり、カナダで実施された鉄道労働者によるストライキは短期間で収束。日本向けにターム品を供給している業者からも、「遅れは見られない」との声が聞かれた。

○CFR 日本

日本着の木質ペレット相場は10~11月着が150.00~160.00ドルと前週から変わらず。12月着も150.00~160.00ドルとなった。

このところ木質ペレットと比べてPKSの価格に割安感があるため、両方の燃料を使用可能な

発電所はPKSの買い付けを優先しているもよう。供給面では、既報のとおり、以前に発電所のトラブルが頻発していた時期のような余剰玉の販売は見られなくなっており、売り気もそれほど強くないようだ。

○フレート

ベトナムと日本間のフレートは27.00~32.00ドルと前週から2.00ドル上昇した。船腹のタイト感が増し、京浜向けであれば20ドル台後半から30ドル台前半程度に商談水準が切り上がっているという。「20ドル台後半から30ドル程度」(商社)との見方もあった。

中国景気が振るわず、鋼材などの輸出が増加。船舶不足が強まっているようだ。遠方まで船が出

払い、中国船が不足。邦船社にも引き合いがあり、傭船者も唱えを上げているようだ。加えて、台風10号の影響で、自社船に遅れが出たため、やむなくスポット船を確保する動きも出ている。さらには、台風11号が中国南部に向かう船に影響を及ぼしており、これも強材料となっているようだ。

北米と日本間のフレートは40.00~45.00ドルと前週から横ばい。

◎PKS

○概況

インドネシア、マレーシアとも前週の水準を維持した。いずれの産地も余剰玉を抱えるサプライヤーが見えている。インドネシアでは、輸出能力が拡大しているとの指摘も聞かれた。日本着では、北海道の発電事業者向けに9~11月分が成約になったもよう。

○FOB 東南アジア

インドネシア積みPKSは10~11月積みがいずれも75.00~84.00ドルと前週から横ばい。12月積みも75.00~84.00ドル。

インドネシア積みでは、相場の底値は75ドルとの見方が聞かれているものの、依然として販売余地のある売り手が見えており、供給余剰感が漂っ

ている。大手サプライヤー1社は在庫を抱え、スポット販売を急いでいる様子。さらに、新興サプライヤーによる販売打診も見られ、相場が圧迫されているとの指摘が寄せられている。日本向けでは、北海道の発電事業者が買い付け入札を通じて9月積み以降のPKSをスポット調達し、FOBベース80ドル以下のインドネシア産を購入したとの情報も聞

かれた。

インドネシアからの供給が増えている背景には、一部の搾油工場(ミル)でPKSの自家消費が減っていることがあるもよう。一部の市場関係者によると、スマトラ島東部や北部では、自家消費用の燃料としてアブラヤシ空果房(EFB)やパームトランクを利用するミルが増えているという。一方、スマトラ島西部ではPKSを自家消費する工場が多く、ミルの供給余力には地域差があるようだ。

インドネシアから9月に輸出されるPKSに賦課される関税は、輸出税がトンあたり6ドルと前月から同1ドル上昇。パーム産業目的基金(レビー)は同3ドルと前月から据え置かれたため、関税額は合計同9ドルとなった。

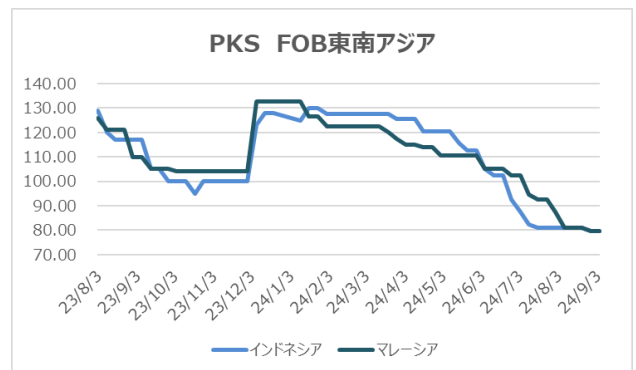
インドネシア政府は8月29日、輸出税の算定基準となるパーム原油(CPO)基準価格を発表した。9月分はトンあたり839.53ドルと、前月分の820.11ドルと比べ19.42ドル上昇した。PKSの輸出税額は、CPO基準価格がトンあたり830~880ドルの場合に賦課される同6ドルに切り上がった。

インドネシア積みPKS関税の推移			
(ドル/トン)	輸出税	レビー	合計
24年1月(1月1~15日)	4	3	7
24年1月(1月16~31日)	4	3	7
24年2月(2月1~29日)	5	3	8
24年3月(3月1~31日)	5	3	8
24年4月(4月1~30日)	6	3	9
24年5月(5月1~31日)	6	3	9
24年6月(6月1~30日)	4	3	7
24年7月(7月1~31日)	5	3	8
24年8月(8月1~31日)	5	3	8
24年9月(9月1~30日)	6	3	9

一方、インドネシア政府は先月半ばより、パーム油輸出業者に対する国内供給義務(DMO)の条件を緩和した。DMOとは、一定の割合を国内に供給することを条件に、インドネシア政府がパーム油の輸出許可を与える制度で、2022年初めに制定された。ただ、今回の変更で輸出量の割り当てにどのように影響するかは明らかになっていない。

マレーシア積みPKSは10~11月積みがいずれも75.00~84.00ドルと前週から変わらない。12月積みも75.00~84.00ドルとなった。

マレーシア積みでも、スポット市場に売りものが散見されている。ボルネオ島出しでは75ドルから、マレー半島積みでは81~82ドルで成約可能。サプライヤーと商社間での商談は80ドル前後で進んでいるようだ。需要の弱さから、マレー半島出しでは在庫を抱えるサプライヤーが多いという。ボルネオ島出しでは70ドル台前半で販売可能との情報も聞かれたが、この水準は一部のサプライヤーによる限定販売との指摘が聞かれた。



OCFR 日本

日本着の PKS 相場は 10~11 月着が 100.00~110.00 ドルと前週から変わらなかった。12 月着も 100.00~110.00 ドルとなった。

北海道の発電所が 9~11 月で 3 隻分の購入に動いている。ペレットと混焼可能な発電所だが、このところ価格が下落している PKS に買い妙味を見出したもよう。一般的にフレートコストが 35 ドル以上かかるとみられることから、妥結価格は 110 ドル台との見方が多い一方、一部は 100 ドル台前半で決まったとの情報も寄せられた。

一方、東海エリアの発電所が行っていた 2025 年度分の価格交渉は一部 100 ドル台後半で妥結したと伝えられた。気体燃料に強い商社が決めたとの見方も伝えられたが、詳細は判然としなかった。

新電力大手のイーレックスは、グループ子会社が運営する PKS 専焼の土佐発電所(出力 2 万 kW)を 8 月で休止した。イーレックスは同発電所で使用していた PKS については、今後は購入しない方針だ。年間約 10 万トンの PKS 需要が消滅した。

土佐発電所は 1997 年に石炭火力発電所として運転を開始したが、2012 年に同社が譲り受け、2019 年 2 月から PKS 専焼の発電所として稼働していた。設備の老朽化で維持費用が増大で採算が悪化した。

土佐発電所は 2023 年 2 月に売電方式を再エネ固定価格買取(FIT)制度から、市場での売電価格に対して一定のプレミアムを受け取るフィードインプレミアム(FIP)制度に移行した。収益が多少改善したものの、維持費用をカバーするには至らなかったようだ。また、FIP 制度に移行したことで、価格変動の大きい PKS での発電の収益が見通しづらくなったことも休止の理由の 1 つとされた。

イーレックスはその他の既存のバイオマス発電所については運営を続ける。土佐発電所の運営で蓄積された FIP の知見を生かすことも検討する。ソルガムなど新燃料を燃料とする新潟メガバイオ発電所(出力 30 万 kW)の建設計画にも変更はないという。一方、他の発電所でも FIP 制度を導入する設備が散見されている。

○フレート

インドネシアと日本間、マレーシアと日本間のフレートは 30.00~35.00 ドルと前週から 2.00 ドル上昇した。船の需給引き締めを受け、商談水準は 30~35 ドルに切り上がっている。

近海船の需給にはタイト感が広がっているもよう。下期の傭船需要が表面化している一方、貸し出し可能な船は見えづらくなっている。中国からの鋼材の輸出が増えていることに加え、これら鋼材を運搬するための航海日数が増加しており、空き船が少なくなっているようだ。この影響で、邦船社に対してもスポット船の引き合いが増えており、強気姿勢を取る貸し手が増

えている。加えて、最近の台風の影響で船のオペレーションに影響が出たことで、基調は一段と強まったと市場関係者は指摘した。

GFR 日本で掲載のとおり、北海道の発電所向けに PKS のスポット商談が決まった。同発電所向けのフレートは 35 ドル~30 ドル台後半で提案があったもよう。一部の市場関係者は、足元では 40 ドル以上の商談になるとみている。

◎国内市場

○市況(9月5日時点)

国内の未利用材原木は北海道東北が6,800~7,800円、関東甲信越が7,000~7,500円、北陸中部が7,200~8,200円、関西が8,000~9,000円、中国四国が6,900~7,900円、九州沖縄が7,600~8,600円。

未利用材由来の木質チップは北海道東北が9,800~10,800円、関東甲信越が10,000~10,500円、北陸中部が10,200~11,200円、関西が11,000~12,000円、中国四国が9,900~10,900円、九州沖縄が10,600~11,600円で推移している。

○トピックス

【関東】

長野県の未利用材原木価格は昨年から横ばい。現在はチップ工場着7,000円程度で推移している。県内の需給バランスは地域によりまちまち。局所的な荷余りが伝わるものの、基本的にはバイオマス発電所向け需要が旺盛でタイト感が強い。それでも発電所の売電収入は再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT)で固まっているため、燃料の木質チップ原料となる原木も連動的に上値が重い。7,000円超えの取引が進んだとしても部分的な取引にとどまるという。また需要が旺盛な反面、供給は頭打ち感が否めない。住宅着工の落ち込みで製材、合板向け原木需要が減っているからだ。地元の製材、合板工場は原木の在庫調整を行っており、林業事業者の伐採意欲が低下している。製材、合板向け原木の生産が伸びなければ、副産物的位置付けとなる未利用材の増産も望み薄。林業事業者は製材、合板向けの需要に合わせて伐採量を調整することが多く「未利用材ばかり欲しいといわれてもそれは無理だ」(業界関係者)。

長野の地区別の需給状況を見ると、とくに中信地区の品薄感が強い。中信では少なくとも2

カ所のバイオマス発電所が運転中。ひとつは2023年に経営破綻した発電事業者から出力1万4,500kWの発電所を買収した地元老舗企業が、事業再建に取り組んでいる。周辺はもともと品薄感が鮮明。これが発電事業者の採算性を圧迫し、一連の買収劇を招いた経緯があることから、この老舗企業は当初、原木の集荷量を本来の必要分より減らして再建に乗り出す構えだったが、足元は可能な限り集材を増やす方向に方針転換。周辺の供給力が追い付かないとの指摘がある。一方、市場関係者によると、中信では設備火災でしばらく運転停止していた出力1,960kWの発電所が8月ごろ運転を再開。現在50%程度とされる稼働率は、今後段階的に高まる見込みだ。この発電所は運転停止中、内製した木質チップの外部販売で糊口を凌いでいたそうで、この外販分は運転再開を機に自家消費に回り始めたという。この他、東信地区は中信にくらべタイト感が限定的だ。現地では出力1,990kWの発電所がある。ただ、出力が比較的小さいのと、中信ほどの集材の競合がないことが奏功している。

(註)国内市場の項目では、動きのある地域の話題を随時掲載して参ります。

◎マーケット・ニュース

○内閣官房=脱炭素GX実現の作業部会、本格稼働後の排出量取引を検討

内閣官房は3日、脱炭素と経済成長の両立を目指すGX(グリーンTRANSフォーメーション)の実現に向けた作業部会の初会合を開催した。2026年度に本格稼働に移る予定の排出量取引制度について具体的に

検討する。有識者や産業界などから聞き取りを実施するなどして、制度設計の論点を具体的に整理し、12月ごろにとりまとめる。事務局が用意した資料によると、(1)制度対象者、(2)排出量削減の目標設定、(3)目標達成に向けた規律強化、(4)排出量取引のあり方、(5)その他、投資の予見性の確保—が検討項目。2023年度から試行的な導入が始まった排出量取引制度には、日本の温室効果ガス排出量のうち5割を占める企業が参加している。その一方、業種別では参加企業の割合に差が生じた。2024年3月時点で、参加の割合が高い分野は100%の航空運輸、98%の鉄鋼などで、低い割合にとどまっている業界は32%の電子部品・デバイス・電子回路製造、41%の水運などがある。作業部会は現状を踏まえて、本格稼働での制度対象の基準について議論する。このほか、排出量目標の設定の客観性や公平性、目標達成を規律づけるための措置、排出量取引の参加者の範囲、取引市場の予見性確保のため上下限価格の設定などについても論点を整理する。

〇イーレックス=土佐発電所を8月末で休止、老朽設備の維持費増大

大手新電力のイーレックスが30日、グループ子会社が保有する土佐発電所(出力2万kl)を8月末で休止すると発表した。設備の老朽化で運転維持費が増大、採算が悪化していた。

土佐発電所は石炭火力発電所として1997年に運転を開始。イーレックスが2012年に譲り受け、2013年からパーム椰子殻(PKS)混焼のバイオマス発電所として営業運転を開始した。2019年2月末にバイオマス専焼の発電所となった。

〇インドネシア=7月のPKS輸出、前年比29%減の35万トン

インドネシアのPKS輸出実績(トン)

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	前年同期比(%)
1月	215,971	265,516	345,707	489,010	389,881	-20.3
2月	204,689	327,629	335,828	373,877	453,369	21.3
3月	281,435	399,061	381,689	499,819	394,213	-21.1
4月	223,747	236,073	296,152	303,968	272,878	-10.2
5月	260,504	261,040	331,364	390,165	326,815	-16.2
6月	258,235	223,389	370,712	435,283	342,973	-21.2
7月	294,213	346,436	455,231	492,933	350,062	-29.0
8月	324,195	367,706	428,330	428,720		
9月	247,454	370,262	314,843	497,957		
10月	181,208	391,704	487,218	403,769		
11月	344,996	412,464	452,071	394,275		
12月	329,200	398,576	419,064	463,605		
(1~7月計)	1,738,795	2,059,144	2,516,683	2,985,055	2,530,191	-15.2

注：PKS=パーム椰子殻

出所：インドネシア中央統計庁

◎統計

○日本の国別・地域別木質ペレット輸入実績－港別・国別 24年7月

440131000 木質ペレット

揚げ地	仕出国	2024年7月		
		数量(mt)	価格(千円)	単価(円/mt)
東京(本関)	ベトナム	194	14,231	73,356
	インドネシア	26	542	20,846
酒田	ベトナム	13,275	382,643	28,824
横浜(本関)	ベトナム	96	2,022	21,063
小名浜	ベトナム	58,000	1,853,423	31,956
相馬	カナダ	10,500	429,242	40,880
仙台塩釜	カナダ	18,299	724,213	39,577
石巻	カナダ	10,500	367,585	35,008
	米国	31,708	1,187,167	37,441
神戸(本関)	ベトナム	52	1,264	24,308
	カナダ	49	1,999	40,796
	米国	44,199	1,504,098	34,030
水島	ベトナム	78	1,769	22,679
浜田	カナダ	47,500	2,286,552	48,138
大阪(本関)	中国	77	6,429	83,494
名古屋(本関)	中国	4	331	82,750
	インドネシア	104	2,515	24,183
豊橋	ベトナム	21,874	678,818	31,033
衣浦	カナダ	27,500	821,002	29,855
田子の浦	米国	30,381	1,308,155	43,058
四日市	ベトナム	14,300	398,083	27,838
荻田	ベトナム	46,218	1,444,052	31,244
下関	ベトナム	19,862	629,324	31,685
宇部	カナダ	6,300	225,348	35,770
徳山	ベトナム	13,855	426,176	30,760
	マレーシア	7,973	264,436	33,166
	カナダ	19,034	613,527	32,233
八代	ベトナム	38,500	996,408	25,881
志布志	ベトナム	51	1,575	30,882
	インドネシア	52	1,158	22,269
川内	インドネシア	260	6,994	26,900
苫小牧	カンボジア	156	6,720	43,077
	カナダ	125	6,135	49,080
石狩	ベトナム	10,525	316,473	30,069
八戸	マレーシア	451	11,437	25,359
沖縄(本関)	ベトナム	26	823	31,654
出所:財務省・貿易統計				

○日本の国別・地域別PKS輸入実績－港別・国別 24年7月

230660000 (パーム油かす及びパーム核油かす)

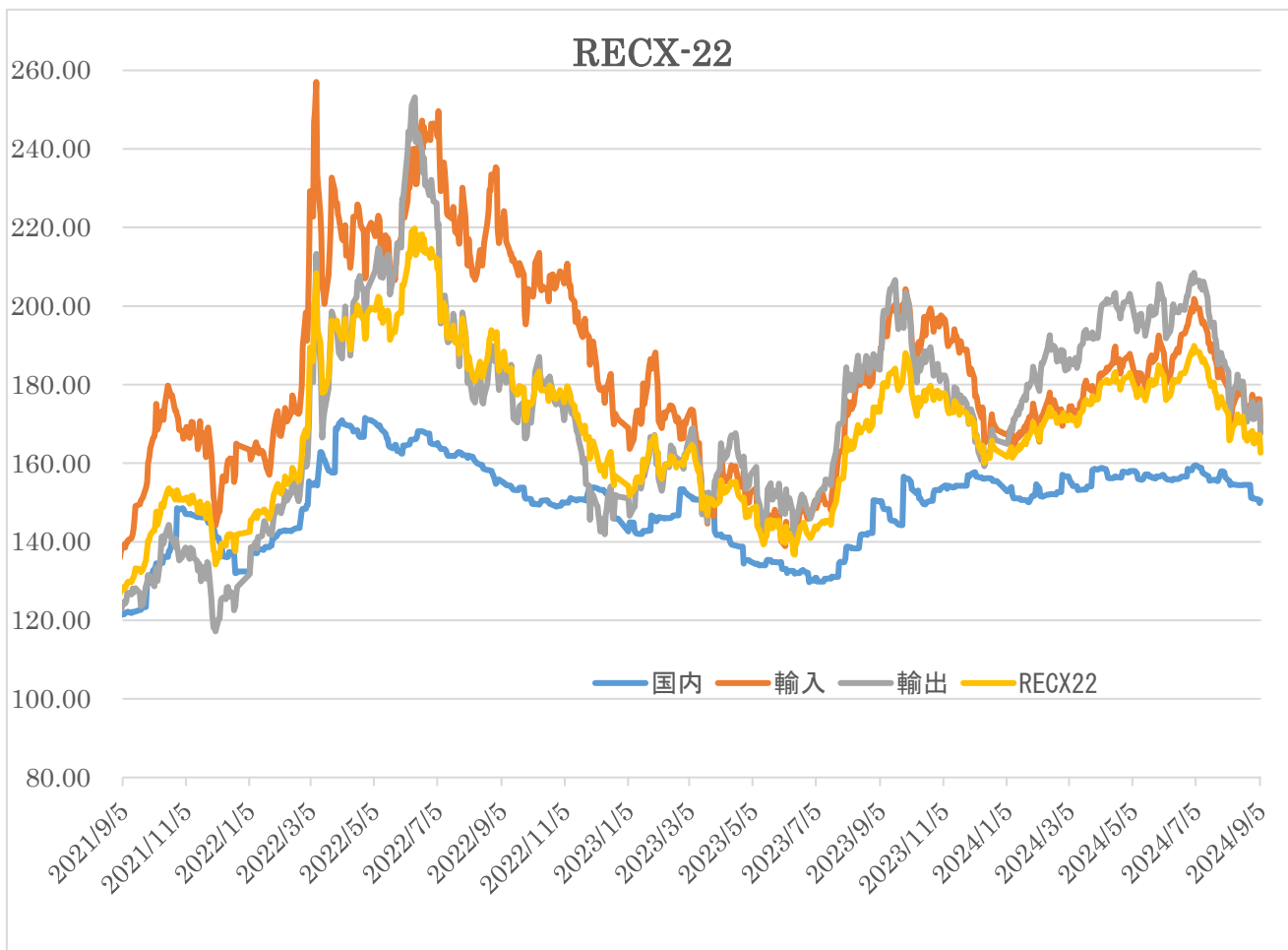
揚げ地	仕出国	2024年7月		
		数量(mt)	価格(千円)	単価(円/mt)
川崎	インドネシア	10,199	254,176	24,922
神戸(本関)	マレーシア	24	1,138	47,417
衣浦	マレーシア	10,062	210,801	20,950
四日市	インドネシア	10,299	274,013	26,606
三池	インドネシア	54,382	1,358,224	24,976
鹿児島	インドネシア	31,359	804,689	25,661
出所:財務省・貿易統計				

140490200 (雁皮並びにナット(殻を含むものとし、粉碎してあるかないかを問わない。)及び種)

揚げ地	仕出国	2024年7月		
		数量(mt)	価格(千円)	単価(円/mt)
東京(本関)	タイ	31	5,687	186,337
	インドネシア	2	1,520	914,011
横浜(本関)	インドネシア	138	4,424	32,023
神戸(本関)	インドネシア	72	2,015	27,986
境	インドネシア	20,530	521,253	25,390
大阪(本関)	インドネシア	115	4,148	36,007
名古屋(本関)	タイ	46	2,799	61,435
博多	タイ	10	1,125	110,294
	インドネシア	22	1,020	45,863
志布志	タイ	24	3,180	132,500
大船渡	インドネシア	10,500	289,969	27,616
出所:財務省・貿易統計				

◎リムエネルギー総合指数22種(レックス22、2010年平均=100)

5日のレックス22は162.70です。



リムエネルギー総合指数 22 種 (レックス 22) は物価や景気動向に大きな影響を与えるエネルギー商品に着目した指数です。

レックス 22 の詳細は下記リンクよりご確認ください。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/recx22/index.php?recx=on>

◎リム創業 40 周年記念本『エネルギーの歩み』発売のお知らせ

リム情報開発株式会社は 2024 年 2 月、創業 40 周年を記念し、『エネルギーの歩み』を刊行いたします。石油メジャーの誕生から脱炭素化に至るまで、エネルギーの歴史をわかりやすくひも解くとともに、リムならではの市況解説もふまえた充実の一冊です。原油、石油製品、LNG、LPG の貿易統計に加え、年表も資料として掲載しており、業務や勉強に幅広く利用していただけます。この機会にぜひお申し込みください。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/40book/>

◎PRA 原則遵守に関する検証報告書の公開

リム情報開発は2023年12月20日、証券監督者国際機構(IOSCO)により定められた石油価格報告機関(PRA)に対する原則の遵守に関しまして、合理的保証に基づく検証報告書をウェブで公開しました。当社が発刊する全ての日刊レポートが対象となります。

<対象レポート>

バンカーオイル、原油・コンデンセート、アジア石油製品(Products)、LPG、ローリーラック、ジャパン石油製品、石油化学、LNG、電力

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/pramenu4/>

◇

※リムレポートの転送は著作権により堅く禁じられております。購読契約者である組織以外だけでなく、同契約者の組織内の他部署、支社、支店などへの転送も出来ません。本レポートの全部もしくは一部の転載も禁じられています。著作権違反が発覚した場合、違約金が発生することがあります。本レポートに記載された情報の正確性については万全を期しておりますが、購読者が本レポートの情報をを用いて行う一切の行為に関して、リム情報開発株式会社は責任を負いません。また、天災、事変その他非常事態が発生し、または発生するおそれがあり、運営が困難となった場合、レポート発行を一時的に中断することがあります。

事業所一覧

[東京本社]

Tel:03-3552-2411, Fax:03-3552-2415

e-mail: info@rim-intelligence.co.jp

[シンガポール支局]

Tel: (65)-6912-7359

e-mail: lim@rim-intelligence.co.jp

[北京支社]

Tel: (86)10-6498-0455, Fax: (86)10-6428-1725

e-mail: ma@rim-intelligence.co.jp huo@rim-intelligence.co.jp

[上海支社]

Tel: (86)-21- 6760 6330/6331, e-mail: rim_sh@rim-intelligence.co.jp

(C) 2024 RIM INTELLIGENCE CO.

お申し込み >

試読 >